廿三日夕刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人 印刷人 岡田弘成
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所 磐城時報社
一部金武錢 一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
△日刊（日曜、祭日）休刊

小名濱町民白タスキで 明治神宮に祈願
小名濱商港問題で 百十二名が上京

町民大會の決議によつて組織した小名濱港修築繼續訴願團の一隊百十二名は廿二日午前二時五十五分列車を増結して大學湯本驛を出發午前八時半日暮里驛で省線に乘り換へ在京中の陳情隊高木、小野、草野、江尻、松本の諸氏と合して原宿驛で勢揃ひをなし團長飯塚榮一郎氏を先頭に各羽織袴に「小名濱港修築繼續訴願團」と記した白襷姿物々しく明治神宮に至り一同うやうやしく本殿に參し神の御力で修築續行をと祈願一と先づ神宮前に引き揚げたが日比谷署では萬一を慮かつて嚴重警戒注意したので白襷を取り午前十一時一行は廿臺の自動車に分乘し薄曇りの都大路を一路麹町區大手町の内務省に至り代表者廿名を選んで齋藤、潮兩次官、内ヶ崎參與官に面接陳情の趣旨を述べ轉じて大藏省に至り小川、河田兩次官に會見午後二時内相官邸で内相代理と會見陳情書ならびに決議を提出し是非とも町民の苦衷を容れられたいと懇願した、これに對し内相代理からは

わざ／＼遠路を御出になり御趣旨はよく承知したがこの前陳情の方々にも御話した通り政府は日本の財政を根本から立直すため緊縮を斷行する事となつた次第でこの點は諸君も國家のために諒として貰はなければ困る、小名濱の事は私はよく承知して居り先日も淺野總一郎氏と會つたが何も全然工事をやめるのでなく一時金を減らすだけで經濟界が復活すれば大いにやる事は勿論であるから何卒よろしく考へて頂き度い、しかし大藏省の査定に對して目下交渉をしてるから出來得る限り盡力はする積りである。

と詳細政府の方針を説明して諒解を求めたので一行は不滿足ながら引き揚げ午後四時神田昌平館において上京中の小柳知事と會見種々協議を遂げて善後策を知事に懇願し別働隊は港灣協會淺野總一郎翁を訪問して同じく陳情し午後六時十分上野發列車で歸町した。

七十七銀行出張所 二十四日から開業
小名濱地方民大喜び

株式會社七十七銀行では小名濱地方民の熱心な希望によつて兼てから小名濱町に出張所設置を大藏省に申請中であつたが、過般認可されたので小名濱町字上町十六番地（電話五十四番）に出張所を設け二十四日から開業する事となつた、出張所主任は宮城縣名取郡増田出張所主任今出川廣氏が來任したが、磐城、第百七の兩銀行が休業したため同地方は取引上非常に不便を感じてゐた折柄の事とてその開設を喜んでゐる。因に七十七銀行頭取は貴族院議員伊澤平左衞門氏で資本金七百萬圓、預金五千二百萬圓を有する東北屈指の大銀行として信用されてゐる銀行である。

△徴兵檢査成績 石城

郡七町二十七箇村の徴兵檢査は二十一日を以て終了したが受驗者本籍一千五百四十七名、寄留三百六十名、合計一千九百七名で甲種合格五百九十七名、第一乙種三百十二名、第二乙種四百十八名、丙種四百六十七名、丁種百十三名で適齢前志願者三十一名あり内二十二名一乙二乙各四名であつた、更に本籍受檢者一千五百四十七名についてトラホーム並に花柳病羅病者を調べて見るとトラホーム患者重九名中四十七名、輕百四十七名、疑四名、計二百七名、花柳病患者梅毒八名、軟性下疳一名、麻病七名、合計十六名で前年及地方と比較しあまりよろしくない結果を示し體格なども見劣りがあつたとのことである。

代議士木村清治氏の 渡歐歡送會

代議士木村清治氏は政友會より選ばれて獨逸に開かるゝ萬國議院商事會議に參列のため八月一日神戸港出帆伏見丸で出立する事になつた。木村代議士は序に英、佛、伊各國を歷遊し來る十二月六日歸平の筈であるが、地方民はこの晴れの首途を祝し行を盛んならしむるため山崎與三郎、諸橋久太郎、高岡唯一郎、安島重三郎各氏發起で二十六日午後二時から谷口樓で盛大な歡送會を開催する事になつたが會費三圓、一般の參會を希望する由である。

石城地方産米 昨今保合氣配

石城地方米値段は本月初旬以來の高温晴天が因となつて連日釣瓶下しに下落し底なしの狀態を呈しつゝあつたが二三日前より辛くも踏止めもち合ひを續け幾分安堵の狀を示すに至つたが尚ほ今回の雨により稻作は愈々良好となつたのでもち合ひも一時小康に終るらしく目下の相場は四等一駄二十一圓五十錢見當で持米者は手離すには手離せず決算期を控えて大弱りの体である

釘本氏を相手どつた 手形の訴訟問題
森本氏に同情集る

平運輸株式會社森本盛一氏は釘本衞雄氏を相手取り三百圓の支拂請求訴訟を提起したがその事情を調査したるに、昭和二年民政黨支部幹事長釘本衞雄氏が縣會議員助川啓四郎、新妻安助、千葉發身三氏裏書の額面三百圓の約束手形を森本氏に示しその裏書を得て磐越銀行に於て現金に替へたが、釘本氏はその後銀行に返濟せぬため止むなく森本氏が之を辨償したが、釘本氏は今日に至るも之を森本氏に返さず手形の效力期間が切れるため森本氏は效力を繼續せしむるため訴訟を提起したもので、釘本氏は嘗て同樣の負債五百圓あり森本氏は一般から氣の毒がられてゐる。

松本錦枝一座 初日藝題

東京歌舞伎名題松本錦枝一座は愈々二十五日から平町聚樂館で開演するが初日藝題左の如し。▲第一鞍馬山大だんまり▲第二富士三桝扇曾我六幕▲第三川中島勝利の山本輝虎配膳の場一幕▲第四平相國旭之清盛清盛御殿重盛諫言の場一幕

縣會副議長 太田氏夫人逝く

郡山市縣會副議長太田三郎氏令閨ツル子夫人は兼てから病氣のため郷里小名濱町に於て靜養中であつたが二十二日午前一時病革まり遂に午後四時四十五分近親、知己に護られて眠るが如く長逝した。ツル子夫人は本社長佐藤作平氏の母堂にして地方稀に見る女丈夫として知られてゐた人で大正十五年太田三郎氏に再嫁し今日に及んだ。享年五十歳、その死を惜まれてゐる。葬儀は郷里小名濱町佐藤作平氏方に於て二十四日午後二時自宅出棺淨光院に於て相營む筈である

安中再び來襲
對磐中の白熱化せる 大野球戰は 愈々廿四日午後一時 磐中グラウンドに

卓球大會
廿八日平で

石城卓球協會主催の卓球試合大會は二十八日午前九時から平稅務署樓上において開催される筈でオール平は勿論仙臺各方面より一流選手多數參加すべく盛況を豫想されてゐる。

北海道・樺太方面 徒歩旅行の途上から
（第十信） 北海道にて 松田正一

注意して聞くと、此の部屋へ來た土工達は失業してゐた場合には就職して此處で飯を食つてゐる、すると一日六十錢からの食費月十八圓を要する併し一ヶ月間の彼等の收入は雨天や種々の事情でやはり欠損する、すると不足分は來月へ、其れに病氣とか負傷などで又食費の不足をする、さうして借財が増す、すると主人の方で仕事を指定する、而して何時か知らぬ間に何處々々の仕事場へ、と云ふ樣にしてやられて其れが監獄部屋と云ふところになつてしまひ、終には出られない事になり、逃げ樣とすれば何處迄も手を廻すと云ふ工合で逃げられぬと云ふのだ、其等の事を三人程の老勞働者が呻吟く樣に囁き合つてゐるのであつた、其れを聞くと流石に自分も監獄部屋へなぞ入れられる樣な事はないと思つてゐたが、既に其の第一歩を不知の間に踏入れてゐる事に氣が付いたが、併し何ふにもならぬ―怖ろしい事だ、二時半、まだ皆が眠入てゐる間にサックを背負つて出てしまつたが、實際驚いた外はまだ夜が明けない、行く處がない。近文のアイヌ部落を見學しても良いがまだ暗い第一道が判らない、其れでも多分此方かなと思ふ方へ歩を運ぶ。そして近文へ行つて敎會を見付けた、だがまだ起きてゐないので外で時の來るのを待つてゐる。（つゞく）

養育院から逃出して盗む

自稱山形縣生れ當時住所不定無職鈴木政治（十七假名）は不良少年で盗癖あり東京市養育院巣鴨分院に收容中の者であつたが十四日夜逃走しその足で東京府下大塚驛電車終点書籍店で書籍十數冊を盗み日暮里驛から無賃で植田驛まで乘りその後飯野村鈴木文彌方留守宅から現金を窃取し二十二日午前十時頃平驛徘徊中平署に捕はれた。

驚いた!!!

こうまで安いとは

平・加納活版所の印刷物

村の自動車營業大平芳春所有乘合自動車に乘り運轉手三島長太郎（二七）が操縱同郡泉村地内瀧尻國道を疾走中所持せる傘が道路に落ちたのを拾はんとして自動車から墜落轉倒し頭蓋骨を粉碎即死した、運轉手三島は植田署に召喚取調を受けた。

磐城時報創立十五年紀念

中等野球決勝戰

決勝校（磐城中學　安積中學）

日時　七月廿四日午後一時

場所　平町磐城中學校庭に於て

主催　磐城時報社

會長　唐土齊治

副會長　阿部政右衛門　加藤丈夫

▲養鷄を盗む

群馬郡瀬多郡花輪村生當時内郷村大字宮磐城炭礦支柱夫岩島德太郎（四三）は七月二十二日午後二時頃同村字金坂雜貨店鈴木要方養鷄舍に忍び入り白色レグホン六羽價格十八圓を窃取した事發覺平署に捕はれた。

自動車から墜落即死

石城郡渡邊村精米所草野茂（四三）は二十日午後三時頃同郡泉

胃腸　内科　專門　十二指腸虫病

梅毒　淋病　婦人病　專門　皮膚病

松村胃性腸病科醫院

（平南町　電話一〇七）

佛國マルソー會社元詰

酒葡萄生

マルソー・ブランク・白　マルソー・ルージ・赤　ℱ1.10

良品にして安價賣行飛ぶが如し

西村屋藥局

鳥季節御料理

柳川

舞子丼

仕出しは迅速配達致します

平町南町平舘隣り

鰻蒲燒　魚榮

電話四二四番

貸家案内

白銀町　商店向　二十圓
仲間町　勤人向　五圓五十錢
同　勤人向　四圓五十錢
同　勤人向　七圓五十錢
同　同　十圓
柳町　勤人向　七圓五十錢
鷹匠町　同　五圓五十錢
同　同　十圓
同　同　十圓
五丁目　同　金五圓
内郷村小島　同　八圓

白銀町　加藤營業所

平町紺屋町

吉田眼科醫院

電話六八番

代議士木村清治氏

渡歐歡送會開催

一、日時　七月二十六日午後二時

一、會場　平町谷口樓

一、會費　金參圓

奮つて御參加を願ひます

發起者　山崎與三郎　諸橋久太郎　高岡唯一郎　安島重三郎

出張所開業廣告

今回福島縣石城郡小名濱町字上町十六番地に小名濱出張所を開設二十四日より一般銀行事務取扱を開始可致候に付爲念廣告仕候

昭和四年七月

株式會社七十七銀行

頭取　伊澤平左衛門

外科　專門

平町南町

X光線科

上田外科醫院

電話一二九番

平町田町（電話五一三番）

高久病院

醫學士　高久忠

新潟醫學士　赤羽清

藥劑士　佐竹菊雄

内科小兒科　外科花柳病科

耳鼻咽喉科　レントゲン科

醬油と味噌

福島縣平町

山崎合名會社

電話（營業部專用一〇番　一般用二七番）

振替東京一九七五五番

上野車坂四三

東京支店

電話下谷五七一二番

振替東京六八三一二番

夏!!　夏!!!

旅行に外出に涼し氣な「パラソル」と

麥帽の道行

夏物の御用意は何時も新し味の溢るる「ツルヤ」へ

平四丁目　ツルヤ商店　電一四〇

太田三郎妻ツル子儀永々

病氣ノ處養生不相叶昨二十二日午後四時死去候ニ付此段爲御知申上候

追而葬儀ハ來ル二十四日午後二時石城郡小名濱町佐藤作平宅出棺同地淨光院ニ埋葬可致候

昭和四年七月廿三日

嗣子　佐藤作平　水野忠護　水野順弘　太田一郎　三澤敬義

外親戚一同